



大砂土中だより

はっ らっ  
澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.2 平成30年5月1日号

## 自分一人ぐらいは・・・

校長 小林 正美

新年度がスタートして早いものでもう1ヶ月が過ぎました。桜の花びらも散り、草木の若葉が一段と鮮やかになって、まさに、「あらたふと青葉若葉の日の光」（芭蕉）の季節になりました。保護者の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。4月28日（土）の学校公開には、多数ご参会いただきありがとうございました。様々な行事等が矢継ぎ早に行われたあわただしい4月でしたが、生徒たちは新しいクラスにも馴染み、落ち着いて活動に取り組んでおります。過日のPTA総会では、新旧役員が交代いたしました。加藤会長様を始めとした旧役員の皆様には、生徒のために日々学校に足を運んでいただき、ご尽力くださいましたことに改めて感謝申し上げます。また、新役員の皆様には1年間どうぞよろしく願いいたします。

さて、ある本に「ぶどう酒が水になった話」というのがあります。これは、私のある先輩の先生から教えていただいたものなのですが、その話は、フランスのぶどう酒づくりが盛んな小さな村の小学校に勤めていた教師の話です。この教師は若い頃から村の小学校で教師をしていましたが、いよいよ年をとって故郷に帰ることになりました。村人たちは、長い間お世話になった先生に感謝の気持ちを込めてぶどう酒を贈ろうということになりました。みんなが自家製のぶどう酒をコップに一杯ずつ持ち寄って、村の広場においた樽の中に入れることになりました。やがて樽はぶどう酒でいっぱいになり、村人は封印して先生に贈りました。この教師は長く勤めた満足感と村人の気持ちに感激し、大切にその樽を故郷に持ち帰りました。そしてその樽のぶどう酒を飲んだところ、なんとそれは水の味しかなかったのだそうです。「自分一人ぐらいは・・・」と考えたことが、美味しいはずのお酒を水っぽいのものにしてしまった。いや、水っぽいだけならまだよろしい、多少なりとも酒の味は残りますから。恐ろしいのは、みんなが「自分一人ぐらいは」と考えたことで本来お酒であるはずのものが、異質な水になってしまったことにあります。一人の自覚不足が集団の質を低下させ、中身を薄いものにしてしまうだけでなく、中身を全く違うものに変えてしまうことに繋がってきます。そして、「自分一人ぐらいは・・・」という考えは、姿形が見えません。それは、本人のみぞ知る心の世界ですから、まさに当人の自覚に待つほかありません。こんないい加減な人ばかりの村は将来の発展も望めないでしょう。一人一人の心がけ、行動がいかに大切であるか教えてくれるフランスの逸話です。

私たちは、よく自分の成績や業績の出来栄えや良し悪しを気にしたり、顔や頭髪、服装やかっこうの美醜を気にしたりしますが、自分の**心の姿勢**については、意外に気にかけていない場合が多いのではないのでしょうか。授業開始のチャイムに遅れて着席したりする人たちがいれば、その数人のために学級全体の始業時のけじめがつきません。また、みんなで協力して班で行う清掃活動で、さぼる人がいれば、他の人はその分よけいに時間がかかったり十分な清掃ができなかったりということになります。

いよいよ今月は、3年生の京都・奈良への修学旅行、1年生にとっては初めての中間テスト。また、6月2日（土）からは、さいたま市中学校総合体育大会が始まります。3年生にと

って最後の試合です。試合の勝ち負けも大事かもしれませんが、それ以上に、生徒の皆さんには、「あきらめない強い心」を学んで欲しいと思います。試合は、自分との戦いなのです。自分が気持ち(気合い)を最後まで持てるかということです。一人ひとりのその心の姿勢が集団の質の向上につながることを思い、あきらめずに最後まで「深刺と」全力を尽くして欲しいと思います。